

嬉野医療センターを受診された患者さまへ

研究情報公開について

通常、臨床研究を実施する際には、文章もしくは口頭で説明・同意を行い実施します。臨床研究のうち、患者さまへの侵襲や介入もなく診療情報等の情報のみを用いた研究については、国が定めた指針に基づき「対象となる患者さまのお一人ずつから直接同意を得る必要はありません」が、研究の目的を含めて、研究の実施についての情報を公開し、さらに拒否の機会を保障することが必要です。

当院では下記の臨床研究を実施しております。本研究の対象に該当する可能性がある方で、診療情報等を研究目的に利用、または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。

研究課題名	(第 77 回 日本消化器外科学会 総会) 当院における大腸憩室疾患に対する治療成績および腹腔鏡手術手技
研究責任者 (所属名)	黨 和夫 (消化器外科部長)
本研究の目的	今回検討した手術群と保存的治療群の比較により、手術に関する独立したリスク因子を検証し抽出することで、初診時に手術を行うべきか否かのいくつかの指標を得ることができる可能性があります。
調査データの該当期間	2014年1月から2021年11月までの7年11カ月間
研究の方法 (使用する試料等)	2014年1月から2021年11月までの7年11カ月間に当科で経験した大腸憩室疾患は出血が186例、憩室炎が187例でした。憩室炎のうち、保存的治療で軽快したもの(保存群)が138例、手術を施行したもの(手術群)が49例でした。手術群と保存群間で術前の各種パラメータ(病変の局在、緊急手術の有無、術前アルブミン値、手術時間、PN Iなど)を比較検討し、また手術症例の独立リスク因子をロジスティック回帰分析で検討しました。 さらに手術症例を、開腹群34例と腹腔鏡群15例に分け、周術期の各種パラメータを比較検討しました。
個人情報の取り扱い	利用する情報から、氏名や住所等の患者さまを直接特定できる個人情報は削除した状態で取り扱われます。研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は一切利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	電話:0954-43-1120(病院代表) 担当者:管理課長
備考	